

## 特集

「明治維新150周年と

鹿児島の特産品」

# 明治維新から 学ぶ

# 特産品の

# 今後について

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館長

灰床 義博 氏

On the future of special products learned from the Meiji Restoration

皆様、こんにちは。鹿児島県特産品協会の会員の皆様には、これまでも、黎明館の常設展を始め、企画特別展や企画展を御覧いただいたり、講演・講座などにも御参加いただいているものと思います。この誌面をお借りし、心から御礼を申し上げます。また、明治維新150周年が、いよいよ来年に迫っている中、標題のテーマで寄稿させていただく機会を与えていただき、感謝申し上げます。

## 「1 黎明館の最近の取組と今後の予定」

当館は、皆様も御存知のとおり、明治維新100周年を記念して建設されたものであり、そのような経緯も強く意識し、明治維新150周年に向け、次のような様々な取組を、準備を含め積極的に行っているところです。

- ①平成27年度 薩摩藩英国留学生渡航150周年を記念しての企画

## 展の開催

- ②平成28年度 薩長同盟締結150周年を記念しての企画展の開催
- ③平成29年度 大政奉還150周年を記念しての企画展の開催(小松帯刀を中心に)
- ④平成30年度 黎明館常設展示一歩リニューアルオープン

企画特別展の開催(幕末薩摩と明治維新)、「薩摩焼プロジェクト展覧会」

なお、平成32(2020)年3月末の鶴丸城御楼門・御角櫓竣工に向け、現在、石垣保全にも取り組んでいるところです。これに関しては、平成28(2016)年12月に、県民の皆様向けの説明会を開催し、500名ほどに参加いただきました。

以上のような取組を通じ、「明治維新とは何だったのか。」ということを、当時の国際情勢も踏まえ、戊辰戦争の、いわゆる「勝者」だけでなく「敗者」の立場からも俯瞰し、県特産品協

会の会員の皆様などを含め、現代の我々が、過去に学びつつ、将来に伝え、発展させていくべきものを提示できればと考えています。なお、私は、先日、会津若松市の福島県立博物館を訪れ、今後の連携について意見交換したところです。

## 「2 明治維新から学ぶもの」 特に、県特産品の国内外への販路拡大に向けて」

私は、平成29(2017)年3月初旬、東京六本木のサントリ美術館(ミッドタウン内)で開催されています展覧会「ヨーロッパ陶磁と世界のガラス」を拝見してまいりました。その数多い展示品の中で、「薩摩切子」(江戸後期〜明治初期)が優品の一つとして展示されており、御覧になっている皆様も、技術の巧みさに驚いておられるようでした。私自身も誇らしく思うとともに、確かに素晴らしい作品・芸術品を創造してきているということを強く再認識したところでした。

さて、明治維新时期における郷

土の先人達の取組と、鹿児島県の特産品の今後についてですが、明治維新に至る経緯にこそ、学ぶべきものが多いと思います。

特に、文久2(1862)年の島津久光の率兵東上、同年の生麦事件の発生、これを端緒とする文久3(1863)年の薩英戦争、その後、英国には同国自体の思惑もあったものと思いますが、お互いの力を認め合い、慶応元(1865)年には薩摩藩英国留学生(薩摩ナインティーン)の派遣を行いました。この19名の留学生達は、英国などで国際情勢にも大きく目を見開き、国際関係の中での薩摩藩と我が国全体との関係などに視野が広がっていきました。慶応2(1866)年には薩長同盟締結、慶応3(1867)年には第2回パリ万博で、あたかも一国を代表するかのようには振る舞った薩摩藩の出展、慶応4(1868)年から翌年にかけての戊辰戦争という流れで、明治維新が実現しました。

これらには偶発的なものもありませんが、これまでもよく指摘されているとおり、共通する要素としては、優れたリーダーシップ、国内は勿論、海外を含めた重層的で冷静・沈着な情報収集・分析、現実への謙虚さ、過去にこだわらず大胆な方針転換をも厭わない判断力・決断力、さらには、トライ・アンド・エラーを繰り返しながらの実行力、これらを生み出した教育・人材育成、高い志と覚悟、などであると言えます。ただし、そこには、薩摩藩英国留学生に代表される様々な人間ドラマ・葛藤などもありました。

特に、第2回パリ万博への出展は、薩摩藩英国留学生が知遇を得た、フランス・ベルギーのモンブラン伯爵からの誘いによるものでしたが、その彼を現地アドバイザー的に活用するなど、出展に向けての情報収集や、「薩摩琉球国勲章」を贈るなどのイメージ・PR戦略も展開しました。薩摩藩は、漆器や竹細工、薩摩焼などを出品し、ジャポニスムを到来させた原動力の一つともなりました。その大胆

さや、企画力・アピール力などは、現代の我々も学ぶべきものが多く、県特産品の国内外への販路拡大・ブランド戦略にもつながるものと思います。

なお、「明治のタバコ王」として有名な岩谷松平(いわやまつへい・1849~1920)の活躍も紹介したいと思います。岩谷は、たばこの民営時代に、明治13(1880)年から、口付紙巻の「天狗煙草」を岩谷商会本店・東京銀座)の名で売り出し、世間の嗜好を、刻たばこから紙巻たばこへ向けました。宣伝方法は奇抜で、赤ずくめの服装で歩き、「驚くなかれ税金300万円」の広告で、国の税収に貢献していることを訴え、ライバル会社と宣伝合戦を行いました。当館の常設展示場(2F)には、「天狗煙草看板」を展示しておりますので、皆様にも御覧いただくことをお勧めします。鹿児島県人は、総じて「宣伝下手」と言われますが、悲観的にならず、先人には、このよつな方もいたという誇りに、自信を持って、それぞれの「宣伝上手」

を目指していただきたいと思います。

また、余談ですが、幕末維新期の県特産品の関連では、島津斉彬と焼酎・薩摩切子、小松帯刀と豚など、いろいろなエピソードがあります。

### 【3】今後の積極的な取組に向けて

以上のよつなことを大いに学んでいただくため、当館においては、その一つの取組として、平成26(2014)年10月以来、3箇月に1回(午前10時スタート・午後3時半終了)、ホテル・旅館や百貨店・金融関係機関・企業・交通・運輸関係企業、その他の民間企業などにお声かけし、鹿児島県の歴史と文化を学んでいただく「黎明館研修」を開催しています。明治維新150周年を迎えるに当たり、明治維新をより深く理解するためにも、今一度、それに至るまでの歴史的な流れを含め、様々な文書資料なども御覧いただきながら、エビデンス(根拠資料)に基づき歴史を見る目を養って

ただくことをお勧めします。当館スタッフ全員でお待ちしておりますので、楽しく学んでいただければと思います。

いずれにしても、県特産品の開発・販売促進は、根気強い取組が必要であると思いますが、皆様の今後より一層の積極的な取組を期待し、次の言葉を贈ります。

NO ATTACK  
NO CHANCE !!

鹿児島県の豊かな歴史と文化に誇りを持ち、その発展可能性・将来性を信じ、一緒に頑張りますよう。

鹿児島県歴史資料センター  
黎明館 館長

## 灰床 義博氏



- 昭和51年3月 鹿児島大学法文学部卒業
- 昭和51年4月 鹿児島県入庁(農政部農政課)
- 平成14年4月 企画部新幹線対策室長
- 平成16年4月 保健福祉部高齢者対策課長
- 平成17年4月 企画部企画調整課長
- 平成18年4月 観光交流局次長
- 平成19年4月 ねんりんピック 県実行委員会事務局長
- 平成21年4月 県民生活局長
- 平成24年4月 鹿児島地域振興局長
- 平成26年4月 鹿児島県歴史資料センター黎明館館長